

⑤ 1年生の実践記録

ア. 本年度の取り組み

子供の身近な自然などに触れる活動を多く取り入れた。通学路探検や虫探しなど、自分たちの住んでいる地域に愛着をもって過ごせるように、校外での活動を行った。また、アサガオの種まきやさつまいもパーティーなどで、オープン授業を行い、保護者と児童が一緒に楽しく活動できる場を設けた。幼保小連携事業の取り組みとして、保育園の児童を学校に招き、一緒に遊んだり、1年生体験をしたりしてもらい、自分たちの成長を実感できるようにした。

○1学期の概要

4月にスタートカリキュラムをもとに学校生活にスムーズに慣れるように、学校での過ごし方やきまりを学ぶ活動をした。2年生と学校探検を行い、学校の様子を少しずつ覚えていった。5月には、アサガオの種まきを行い、植物を育てる喜びや成長して変化する様子の面白さをみんなで共有した。6月は、通学路探検をオープン授業で行い、保護者と一緒に地域の様子を見て回った。7月は、学年で水遊びを行い、夏の遊びの楽しさを実感できた。



○2学期の概要

9・10月は、虫探しや秋探しを行った。校内と身近な場所（校外）で秋の自然の様子に気付いたり、秋の生きものをとって飼育したりして、自然の豊かさや面白さを実感できた。虫探しや秋探しの経験を基に、虫マップや秋マップを作り、自分たちの身の回りにはたくさんの自然にたくさんあることに気づくことができた。秋のおもちゃ作りでは、校庭に落ちていたドングリや落ち葉を使っておもちゃを作り、楽しく遊んだ。収穫したさつまいもを使い、2年生と一緒にさつまいもパーティーを行った。つるでリースを作ったり、蒸かしたさつまいもをグループで食べたりして、秋の実りを実感した。12月からは、家庭でできる自分の仕事について考えた。週末にお手伝いをするすることで、自分の家族の一員として活躍できるという喜びを味わった。



○3学期の構想

校庭を探検したり氷づくりをしたりして、冬の自然を感じる活動をする。また、昔遊びでは、地域の方々と交流し教えてもらいながら、けん玉やお手玉遊びで楽しむ。

「もうすぐ2年生」では、小学校に入学してからの1年間の活動を振り返ることを通して、自分の成長を感じさせたい。学習面や生活面が内面的な成長と繋がっていることや、その成長を支えてくれている人々がいることにも気付かせたい。自分の成長に気付き、2年生でもさらに成長していきたいという希望や期待感をもたせ、意欲的に生活できるようにする。

○実践してみても

外に出たり触ったり、観察したり等、自分の五感を使って活動することを児童はとても楽しんでいった。マップや見つけたよカードにまとめることで、見たり感じたりしたことを、クラスや学年で共有することができた。生活科では児童の実体験を大切にしたいと改めて感じた。そのため、単元を見通して、適切に体験活動を実施することを大切にしていきたい。また、活動の後には、振り返りの時間を設け、クラスや学年全体で共有することで、学ぶが深まると感じた。

イ. 実践しての成果 (○) と課題 (●)

【児童】

- 実体験を増やすことで、生活科の学習を楽しみにする児童が多くなった。
- 生活科と他教科を関連付けることで、児童の多様な発想が生まれた。
- 目標や課題、計画等、児童が何の活動をしているかの認識が低かった。

【教師】

- 児童の言葉やつぶやきを拾いながら、広めていくことで、学びや気づきを共有することができた。
- 郊外での活動を増やしたり、学年やブロックでの活動を増やしたりすることで、楽しみながら主体的に活動させることができた。
- 児童が目標や課題、試すことや計画すること等、活動がどの段階にあるのか意識させるように、計画的に授業を進行していくことが難しかった。
- 子供の思考の流れをさらにわかりやすくした板書を心掛ける。

ウ. 来年度に向けて

- ・年間を通して、学年やブロックでの活動を充実させるために引き続き計画を練っていく。
- ・ロイロノートなどを活用し、動画や写真を撮影しまとめる等、ICT活用を充実させていきたい。
- ・児童が分かりやすい板書になるように、色分けやマーク、思考ツールを活用していく。